

# 「全国つながり白地図」と「四つ飛び石の法則」

山梨県中央市立三村小学校 内藤 和久

## 1 地図の魅力に引きずり込む

子どもたちにとって47もの未知の都道府県名を覚え、さらにその位置までも習得することは大変なことだと思う。しかも学習内容は増加しても時間数は今までのままでこなさなければならないのだから、教える側にとっても、子どもたちの興味を上手に引き出しながら、すっきり習得させなければならない。ただ「暗記しなさい。」とだけではすまされない。「地図の魅力」にどう引きずり込むかで勝負は決まってくるように思う。

## 2 県と県とのつながりや位置関係を 大まかにつかむ

個々の県の位置の認識は、列島のだいたいこの辺にあるという記憶だけでは不十分で、隣接して県境を共有する県同士の位置関係を把握し、順序を意識して認識することが大切である。そこで県同士の「つながり」に着目した。「全国つながり白地図」はデフォルメした県の大まかな形のピースとそれをつなぐ実線からできている。つなぐ実線は隣接していることを示し、互いに直接行き来できる県同士のつながりを表している。破線は海底トンネルや橋でつながることを表している。

実際、県の位置関係の子どもたちの認知が、「全国つながり白地図」でつながりの網をたどる作業をしながらか強まっていく様子がうかがえた。



また県境を接することは両者の間に、鉄道や道路が通じているということでもあり、列島全体の陸の流通網もイメージすることができるようである。

## 3 でっぴりの県はわかりやすい

北と南の端にあって個性的な風土を持っている北海道と沖縄県と、小さいながらも首都東京都については、認知度が非常に高い。この3つに加えて、列島の中で半島状に飛び出した県も位置がわかりやすいようだ。本州の北に飛び出す青森県、太平洋岸の真ん中でほぼ直角にまがる所の千葉県、本州の南のどっぴりの和歌山県、西の端の山口県、日本海の真ん中でちょんまげのように飛び出した石川県、九州島の西に飛び出した長崎県、南の飛び出しの鹿児島県である。これらの7県を

ステップ1 飛び出した県と東京を覚えよう

【シート1】

## 4 すでに覚えた県を足がかりに、 旅するようにルートに沿って覚える

その成立は中世なのだそうだが、日本最古の列島地図には「行基図」と呼ばれるものがある。伊能図以来の列島図に慣れてしまっている私たちには、へんてこな印象の地図であるが、近代的な測量技術の存在しない世界に生きる人々にとっては、旧国名を配列する五畿七道の表現だけで十分にイメージを伝達できたのである。「全国つながり白地図」での都道府県学習でも、どっぴりの県を足がかりに旅するようにルートに沿って学習していった。本州の海岸線を青森からスタートして時計回りに進む。その他のルートもすべて時計回りに統一されている。

